

# ① こうやってはいけない！テキスト・カコモンの回し方

## 1 目的

択一で上乗せ点も含め、60問得点し逃げ切る！

記述は基準点+ $\alpha$ を確実に守り切る！

### 【理由】

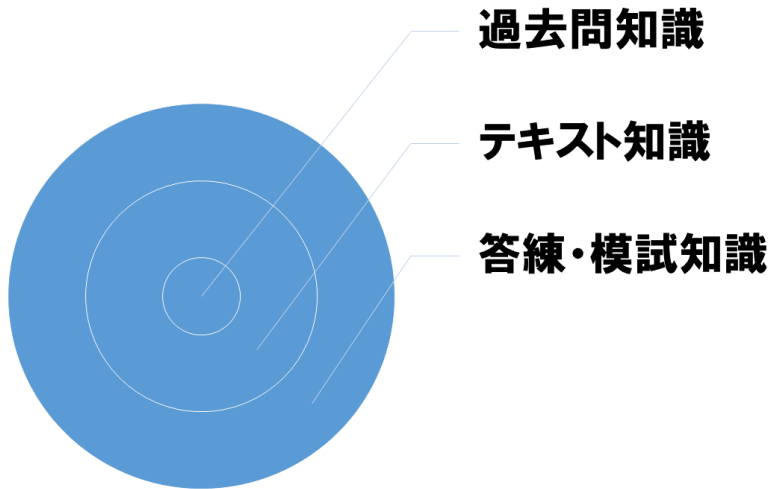
記述は、採点が水物・ブラックボックスであり努力が得点に結びつきにくいこと。  
択一は、1問3点と明白であり、正しい学習法で勉強を積み重ねさえすれば、比較的  
努力が得点に反映されやすい傾向にあること。



## 2 手法

主な使用教材は、①過去問、②テキスト、③答練・模試

この3つを重要度別に図式化してみると下記の通りとなります。



### ① 過去問知識について

合格必要論点の核となるのは、「過去問知識」。

過去問知識で差を付けられると逆に他の箇所での挽回がかなり厳しくなります。

過去問知識は、もはやサービス問題と位置付けた方がいいです。出題者からすると、「(基準点調整のため) どうぞ得点して下さい」という位置付けです。

### ② テキスト知識について

結論として過去問知識だけでは今の司法書士試験に合格することはできません。

下記は、過去問知識のみでどれだけ得点できるかを示した図となります。

※平成 30 年度本試験、朝倉調べ

	午前	午後
過去問出題数（肢単位）	<b>78/175</b> （44.57%）	<b>77/175</b> （44.00%）
過去問のみ組み合わせた の正答問題数	<b>17 問</b>	<b>18 問</b>
※Asakura ミニマムテキ スト+過去問での正答 問題数	<b><u>30 問(+4 問)</u></b>	<b><u>30 問(+6 問)</u></b>

過去問知識だけでは、合格点はおろか、基準点さえもおよそ到達することができません。

問題は、星の数ほど存在する膨大な択一“未出論点”。

それをどうやって修得するか？

テキストしかありません！

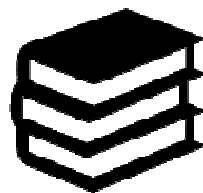
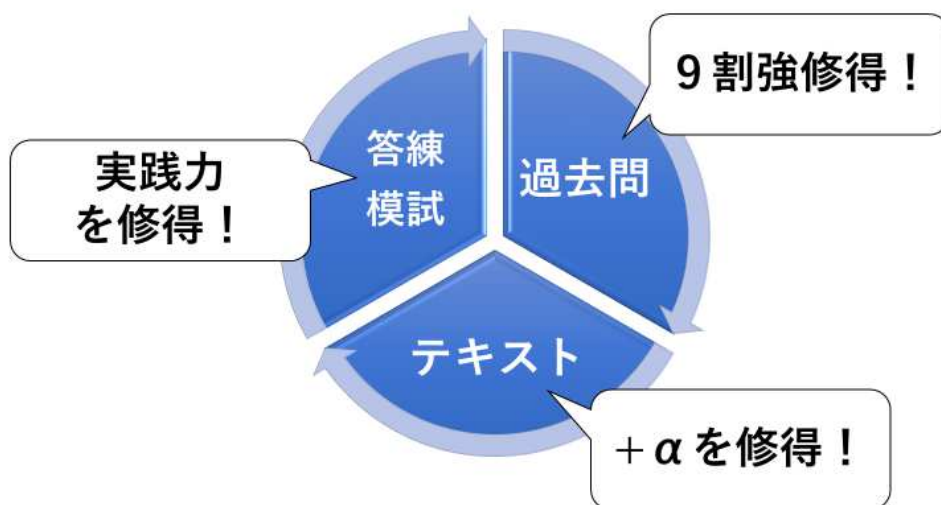
※ここで、誤解しないで頂きたいのは、未出論点は、答練・模試から修得するものではないということです。

### ③ 答練・模試について

答練・模試はあくまで本試験本番において、パフォーマンスを十二分に発揮させるための慣れの場に過ぎません

## まとめ

過去問知識を万全にし、 $+\alpha$ の未出論点をテキストで補うこと。  
答練・模試はあくまで本番慣れのためのツールとして利用すること。



### 3 使い方

#### ① テキストについて

##### i どのテキストを選ぶべきか？

下記2点に注目してみることを御勧めします。

- ア 網羅性
- イ リポート

##### ア 網羅性

そのテキストで本試験で何問得点できるのか？

※ 但し、網羅性は高ければ高い程良いとは限らない点に注意。

##### イ リポート

司法書士試験合格を勝ち取るには下記の考え方は鉄則です。

司法書士試験合格には知識精度の高さは必要不可欠  
⇒ 知識精度を高めるにはリポートしかない！

現実的にリポート可能な分量のテキストを選択すること。希望観測的ではなく、自身の可処分時間（※仕事、家庭等）を踏まえた上で、現実的にリポート可能な分量のテキストであるか？が大切です。



リポートして記憶定着  
できなければ、絵に描い  
た餅になる！

ii テキストをどのように勉強するのか？

下記 5 点に注意を払う。

- ア 目的意識をもって読み込むこと
- イ 過去問知識とリンクすること
- ウ 類似点・反対概念を意識すること
- エ (必要な箇所は) 趣旨を意識すること
- オ 大枠を意識すること

ア 目的意識をもって読み込むこと

ここでいう目的意識とは試験対策的な意味であり、問題として出題された際に実際に解答できる力を養うことを意味します。より端的にいうと“問題意識化した読み込み”といえます。

“読書百遍義自ずから見る”

このような古事もありますが、資格試験の勉強においては、限られた可処分時間の中において結果を出すことが必要不可欠です。無駄を排し、効率を求めること。このことを常に意識して下さい。

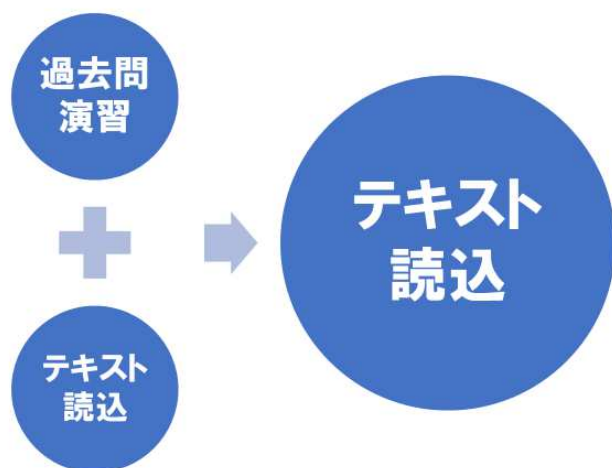
ここでいう“問題意識化した読み込み”の具体的な内容は、下記イウエオのことを意味します。

イ 過去問知識とリンクすること

テキスト読み込み時に、“過去問ではどのように問われたか？”を意識すること。

- ・言葉尻だけの論点なのか？
- ・具体的事例を交えて問われる論点か？
- ・趣旨まで意識した論点が問われるのか？
- 等々・・・

そして、最終的には、過去問演習から脱却し、テキストのみで択一学習が完結する形をとることを目指しましょう。



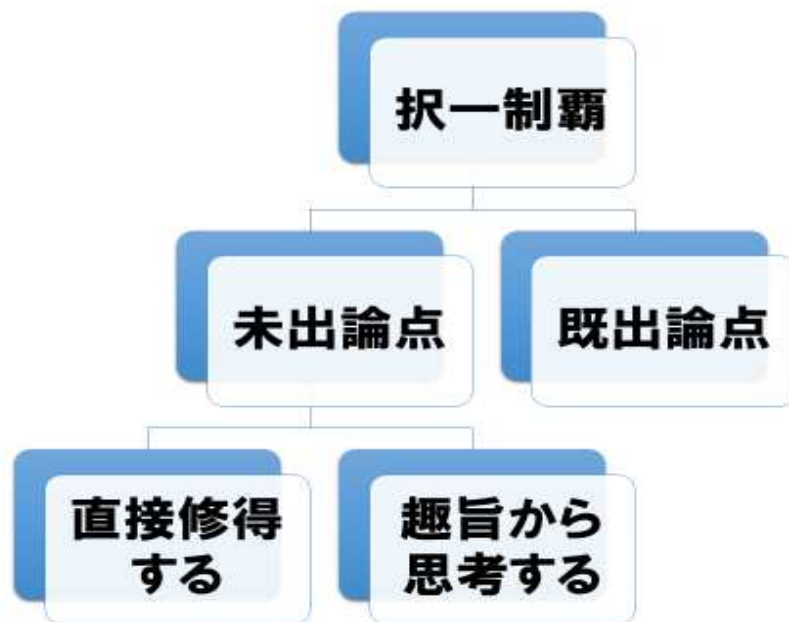
#### ウ 類似点・反対概念を意識すること

記憶障害の一要因として“知識の混同”が挙げられます。知識混同を防ぐ最も効果的な手法は類似点・反対概念を学習時に常に意識していくことです。最初は大きな枠から構いません。学習が進むにつれ徐々に詳細をつめていけばいいです。

また、この意識は当初は、同一科目間の中でいいのですが、徐々に科目の枠を取っ払って直前期には全 11 科目を有機的に連動させるようにしてみてください。

#### エ (必要な箇所は) 趣旨を意識すること

この点に関しても前述したとおり、本試験解答力を養うに必要不可欠なものです。また、趣旨を意識することは、記憶力強化に役立ちます。



×未出問題を解きまくる。

○趣旨から思考できる力を養う。

⇒ 各論点の趣旨の理解を意識した学習を心掛ける。

(知識に思考力が備わり、幅が広がる)。

趣旨が充実したテキスト or 講座。

例：占有の訴えと反訴

占有の訴えを提起された場合に、相手方は、防御方法として本権の主張をすることはできないが、本権に基づく反訴の提起をすることはできる (最判昭 40. 3. 4)。



オ 大枠を意識すること

“木を見て森を見ず“

この点民事訴訟法が苦手な方は特にこの点を意識していないことが多いように思われます。

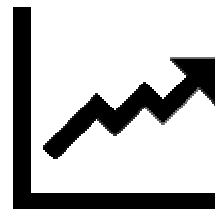
例えば、争点整理手続きには、大きく3つの種類があります。

- ・ 準備的口頭弁論
- ・ 弁論準備手続
- ・ 書面による準備手続

それぞれの違いも勉強したが、訴訟のどの段階で問題とされるのか？よくよく考えたら自信がないな。

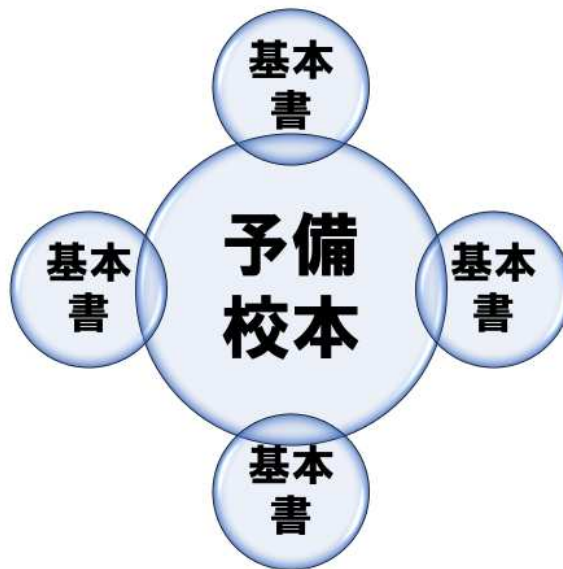
このような事態を防ぐには、下記の点に意識を払うと効果的です。

- ・ 条文の配列を意識すること
- ・ テキストの目次を参考に今どこ何を勉強しているのか？意識すること
- ・ 論点間のつながりを意識した学習



iii テキストは一冊に絞り込むべきか? ※独学の方へ  
一冊のテキストに集約し、それを徹底的にリピートをかけ、知識精度を高めること。  
司法書士試験合格を勝ち取るための王道的なセオリーです。  
ですが、あくまで“参考”という形であれば、複数の基本書を保有することは全く持  
って問題ではないです。

まず、メインとなる予備校本を一冊用意する。あくまでこれがメインであり、中心で  
す。  
次にその予備校本を“補完する意味合いで”所謂定評のある基本書を補足的に参考す  
る。



大切なことは分からないこと・理解できないことを無視しないことです!

## ② 過去問について

司法書士試験合格を勝ち取るにあたって過去問演習は必ず必要です。

なぜ必要なのか？

このことは逆に過去問演習をしなければどうなるのか？このことを考えてみるといいでしょう。

### i 方向性が狂うこと

司法書士試験の勉強が長期化する主たる理由は、見当はずれの問題に触れることによって無意識的に範囲を広げてしまうことです。広げるとどうしても知識は薄くなります。結果、知識精度は低くなります。出題可能性の低い、もっと言うと、例え判断できなくても合格者レベルとは差が付かない論点にばかり関心が向き、結果合格が遠のくこととなります。また、このことは精神衛生上も決していいものではありません。

この点を解消するツールは過去問しかありません。

また、このことは本試験の場においても必要とされる能力となります。

具体的には、本試験の場で問題用紙を通じて出題者と会話をするのです。

昨今の受験生のレベルの高まりから、過去問論点はもはやサービス問題、どうぞ判断して下さい。という意味合いで出題されているのです。

### ii 他の受験生に決定的な差を付けられてしまうこと

合格者レベルの受験生はほぼ過去問を仕上げてきますので、本試験の場で過去問論点をみるとまず、確実に瞬殺してきます。逆に言うとその過去問論点を見余ってしまうと他で挽回はほぼ不可能な状態です。他の受験生に決定的な差を付けられてしまうこととなります。

### iii 実践的編

過去問演習をどこまでやるべきか？

過去問演習は司法書士試験合格に無くてはならないものですが、何も全てを完璧にしななければならないわけではありませんので御安心下さい。少し時間に余裕のある今のうちに過去問のミニマム化に着手しておきませんか？

過去問のミニマム化とは、具体的には、下記を意味します。

- ア 同じ論点肢を削除すること。
- イ 判例・先例そのままの論点も削除。
- ウ 浮いた論点を削除
- エ 平成12年度の問題（一部）
- エ 民法の根抵当権の問題は全て削除。



### ③ 答練&模試

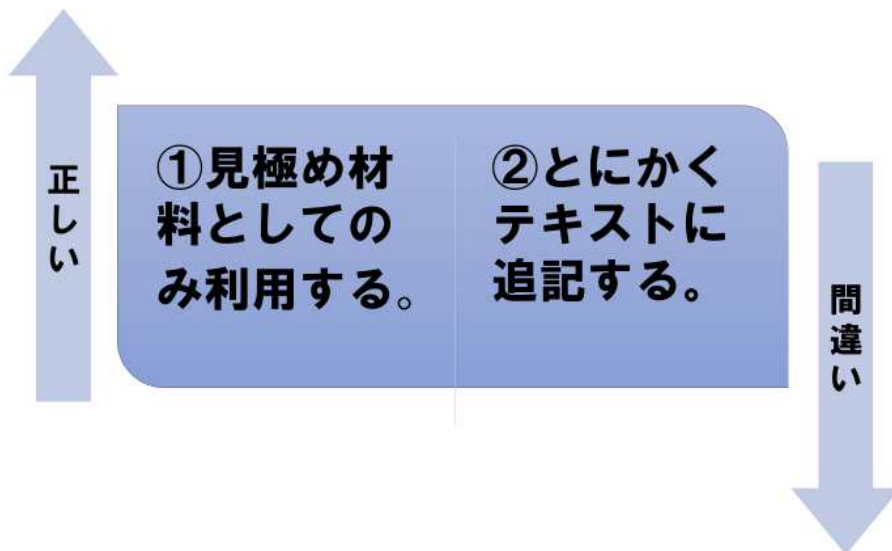
#### i 活用方法に誤解が生じやすいツール

答練・模試は使い方を誤りやすいツールです。正しい位置付けは下記の通りとなります。

答練・模試は、あくまで本試験シュミレーションツールである。

決して、論点を拾う場ではありません。答練・模試においては、テキスト及び過去問で見たことが無い論点が多々出題されます。その時にどのように考え対処するのか？

この点が司法書士試験合否の分水嶺といっても決して過言ではありません。



ii 時間配分の場合として活用すること

本試験の場をイメージしてみてください。

静寂の中、試験委員の「はい、始めて下さい」の一言で試験問題を広げる。

午前であれば、最初の問題である憲法。

どうですか？

地に足が付いた状態で問題と向き合うことができますか？

ただでさえ憲法はちょっとした思考力が問われる科目です。

“頭がうまく回らない”

それが、素直なところでないでしょうか？ 決して大げさではなく、人生がかかった試験です。緊張から脳が鈍るのは当然です。であれば、ここすべきことは、

“脳の回転を高めること”。

具体的には、思考力が問われない単純知識問題から解答していき、徐々にギアを上げるように仕向けることです。このことは午後の部でも同じです。

iii 目的と手段を混同しないように

模試・答練はあくまで、本試験当日のパフォーマンスを最大限高めるためのものです。

いわば本番慣れの場に過ぎません。それ以上でもそれ以下でもありません。

確かに答練・模試が本格的に開講される直前期に、不本意な得点をとってしまうと精神的に同様することも仕方ないでしょう。

答練・模試では、択一各 26 問を一つの目安にする

目的はあくまで、司法書士試験合格

答練・模試はあくまで手段であり、その手段とは、本試験実践力を養うこと。

#### iv 答練・模試の復習の必要性

答練・模試の過度な復習は必要ありません。

復習を通じて確かに答練・模試の得点は高まりますが、そのことと、本試験の得点との相関関係はほとんどありません。所謂答練番長といわれる状態に成り下がるだけだからです。

答練・模試に対する正しい認識は、あくまで本番実践力を養うことこと。

この1点だけです。

## 朝倉日出男

### 【担当講座】

- ・ ミニマムコンプリート基本講座  
（基礎構築 or 基礎再構築、全 90 回）
- ・ 択一で逃げ切る講座  
（中上級択一講座、全 34 回）
- ・ 記述で守り切る講座  
（中上級記述講座、全 13 回）

### 【SNS】

- ・ ブログ 「司法書士試験 ライジングサン」  
<http://sihousyosisikennrisingsun.blog.jp/>
- ・ Twitter 「朝倉日出男（司法書士試験講師）」  
<https://twitter.com/ddgbs103>
- ・ ホームページ「司法書士試験」総合情報サイト  
<http://www.minimumrepeatsihousiyosi.com/>



## 【Asakura ミニマムテキスト】

※「ミニマムコンプリート基本講座」、「択一で逃げ切る講座」で使用

約1300ページ

※通常のテキストの1/4程度

本年度(平成30年度)得点実績  
(テキスト+過去問)

午前30問、午後30問

	平成29年	平成28年	平成27年
基準点	+12問 (+36点)	+10問 (+30点)	+7問 (+21点)

